

■コミュニティだより

三春 わが街



三春で生まれて

生まれは三春です。ここ（福聚寺）で生まれました。無論覚えておりませんが、渡辺キエさんという産婆さんにとりあげて頂いたそうです。

ヤンチャだったもんですから、生まれる時に暴れて、股関節脱臼になりました。産婆さんが早く発見してくれたのと、母親が毎日背負って通院してくれたお蔭で今は普通に歩けます。遠藤先生にも感謝しております。その後、ヤンチャでして、幼稚園で往復ビンタを頂いたのを皮切りに、小学校でも多くの先生の鉄槌を頂戴しました。

父親の体罰は受けたことなかったですね。体罰なしで充分怖かったですから。あ、一度お尻をツネられましたか……。それから誰にされたのかよく覚えていないんですが、本堂の柱にくりつけられたことがありますね。ええ、それで涙で

ネズミの絵を……。あ、これ雪舟でしたか(笑)

ともかく十八年間この三春でお世話になって、その後十三年間を外で過ごしました。まあ、この寺で生まれたからこの寺に戻ったという、そういう素直な道ではなかったですね。一時は在俗のままで生きる道を本気で考えました。仏教や禅に親しんでくればくるほど、その思いも深刻になっていった気がします。

なにもお寺に限ったこと

たし、京都の天龍寺で平田
精耕老師にお会いしたのも
鮮烈な出発点、そこを出た
のもまた出発点だったと、
そう思っています。忘れっ
ぱいもんですから何度も出
発しないと……。

こうして三春に戻りまし
て、何度めかの出発点で思
うのは、やはりこの町に生
まれたことを最大限生かし
たい、ということですね。

同級生や先輩後輩、そして
恩師や産婆さんまでが身近
にいるというのは、これは

教以外の宗教にとても興味をもちまして、カソリックやモルモン教、原理教会、天理教等々、この近くで触れられる宗教、教会には熱心に通いました。うちの和尚はそういうことにはとても寛大でしたね。好きにさせてくれました。

学校の選択に関しても特に仏教大学とは言わなかったですし、それでも自然に、足はイスラム教の教会とかものみの塔とか、あるいは山奥の禅寺とか、どう

頭を剃って僧職に、という気持ちになれなかったんです。ただ様々な仕事をしながら、そして給料を貰いながら、寄附って何だろろう？お布施って何だろろう？お坊さんで何だろろう？頭の隅でそんな事を考えていた気がします。

変な言い方ですが、頭を剃ったことでようやく救われた、という気分ですね、今。ええ、戻りたくないですね、方向の定まらないエネルギーは一種の不幸だと

れない、という気分になったんですよ。それで各家庭で不用になっている日用品を托鉢しようと思ひまして……、町中に呼びかけて廻つて次の日に車で頂きにあがるという形で、結局トラック二台分位集まりましたか。考へてみれば高校を終えて三春を離れてから、それが三春との再会、久しぶりのかかわりだったんです。そのときの感触が今も私の中で、非常に大きいですね。宗教や宗派を越えた何か

檀家意識を越えた「心意気
みたいなものですか。
そういう所を相手に、お
寺という場所を開いていこ
うと思ったわけです。

開かれた
お寺として

幸い和尚も賛同してくれ
まして、まあ大袈裟に申し
上げるまでもなく、お寺と
いう所は昔からいろんなも
のが出ていったし入ってき
た。まあやってみろ、とい

キラリ！
光る個性、溢れる魅力

—福聚寺橋本宗久副住職に聞く—

ではありませんが、一つの組織というの、若者の思いつめた眼で見ると様々な

僧侶にとって決して当り前ではないんです。福聚寺にとっても、おそらくこのお

しても宗教の方へ向いてい
た気がしますね、ええ、大
学時代。

矛盾を含んでいるわけです。「矛盾」としか思えない。そして性急な結論を求める。「あれか、これか」「やるか、やめるか」とどんどん二

寺で生まれて育った僧侶は私が初めてじゃないでしょうか。ええ、宗明和尚は生まれは岩手県ですから……。檀家さんの他にも、大勢

一口で言つて、やはりスケベなんでしょうね。宗教に限らず、職業というののも何でもやってみたかったですね。ええ、学生だとは言

者扱一に向つて尖つていく
しかし、そこで慌ててはい
けない気がするんです。何
年も考へて、そして残つて
くる二つのもの、というのよ

のお世話になった人々に囲まれて生きていけるわけですから、この三春で何度めかの出発点を迎えられたというのよ、本当に恵まれた

わなないで、屋台のおでん売りだったり、水商売とか土方とか、翻訳とか、いろいろやりましたねえ。学校をでて一番最初に就いた仕事

もう二つとも自分の人生ではないか、と思ったわけだ。抽象的で申し訳ないんですが、まあ、一つの大転回がありまして、今こうし

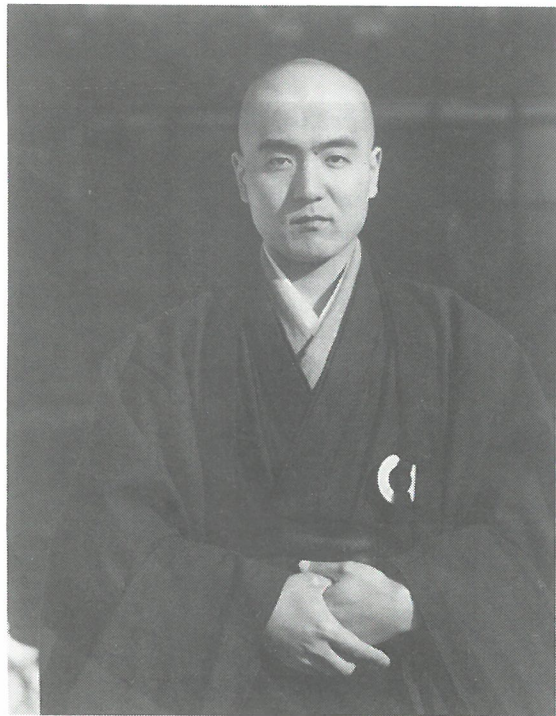
ことだと思えますね。考え
ようによつては、まだまだ
両親の用意してくれた出発
点にいるということですか
ねえ。

はゴミ焼きでした。川口市の清掃工場に二年程お世話になりました。

そうですねえ、同じ時期に別な仕事をだぶらせたたり

ましたね。恰度お盆の手伝いのために三春に戻っていた時でした。

A black and white portrait of a man with a shaved head, looking directly at the camera. He is wearing a dark, high-collared robe over a light-colored garment. The lighting is dramatic, with strong shadows on the right side of his face.



特集 わたしからの提言

三春がこのような街になれば

三春がこのような街になれば

清水 千恵子

中町

三春に縁あって、二十一年目の春を迎えました。あつという間にすぎた感の年月ですが、この二十年をふり返り、改めて三春をみつめ直してみますと、考えさせられる事が多い中、私のみはてぬ夢を、ほんの小さな事ながら……。

昨年は愛姫ブームで、一関と姉妹関係となりましたが、東北の鎌倉といわれて久しいこの街で、どれ程の人達が鎌倉を識り得てるのでしょうか（文化財は別として）。私は昨春秋、友達と散策してきました。北鎌

倉の静かなたたずまい、ゴミのない道、裏通りの店々も風雅な造りであったり、一見した屋とみまちがえる感じ。神社仏閣の案内板の多さ。ささいなことまでに親切であり、時代を感じさせる気品のある街でした。ぜひ鎌倉へのお出掛けおすすめいたします。

それにくらべ、文化財はあっても中途半端な文化の街なのではないでしょうか。そこで桜の時節には……街の中はほこりが多く、梅・桃・桜が一度に咲き初めても、滝桜・お城山・神社・寺では、ちよつとさびしくはないでしょうか。どの家の庭にも、三つの花が咲き、旅人が街に入ると、花にうもれ、ふくよかな香りにつ

つまれる街になってほしいものです。

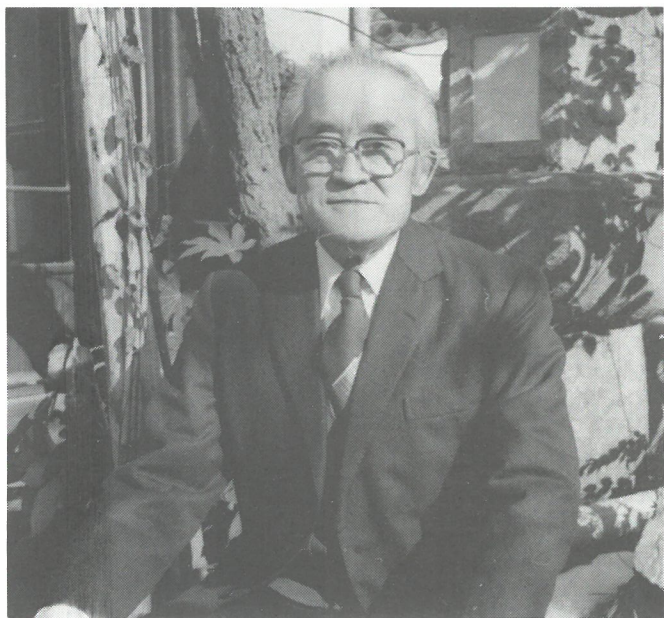
昔は、駅方面の道路には、桜並木があったとか。ぜひ復活できて桜の通り抜けにでもなったら素敵ですね。二、三年では無理な話でも二十一世紀に向けて本当の桃源郷になることを夢みている私です。

三春の文化財を大切に

吉田 宗行
大町

貝山には、県道を前の久保地区へ下ると聖徳太子堂があり、近くに義民山崎甚十郎等を供養した地藏堂がある。又、暫く下ると右側に御代田家の白壁が見えるが、今は三春ダム建設のために移動してその跡形もない。

蛇沢地区には、有名な庚申塔群が道路左側にある。歩いていてこのような野辺の文化財に出会うと昔への郷愁を感じるのには私ばかりではないであろう。野仏の如意輪観音像には、農家の嫁の安産の願いが、十五夜塔などにはその吐息が、側々と聞こえてくる。



数年後には完成するであろう近代的な三春ダム公園には、オブジェ的な彫刻も必要であろうが、祖先の残した文化財の利用なども考えていただきたいと思う。

ふるさと

春の山 帯のごとくに
朝霧 袖にたなびき
杜はるか 古刹の薨
奥深く 秘仏まします！
黄昏の 長き夏日に
白き壁 水に美はし
戦国の 面影残る
館跡に 淡き夕月！



さわれいま 冬の山里
新らしき 時の流れに
古き家 青き田や畑
ダムとなり 水に沈むを



三春の桜に思う

石山 佳子
荒町

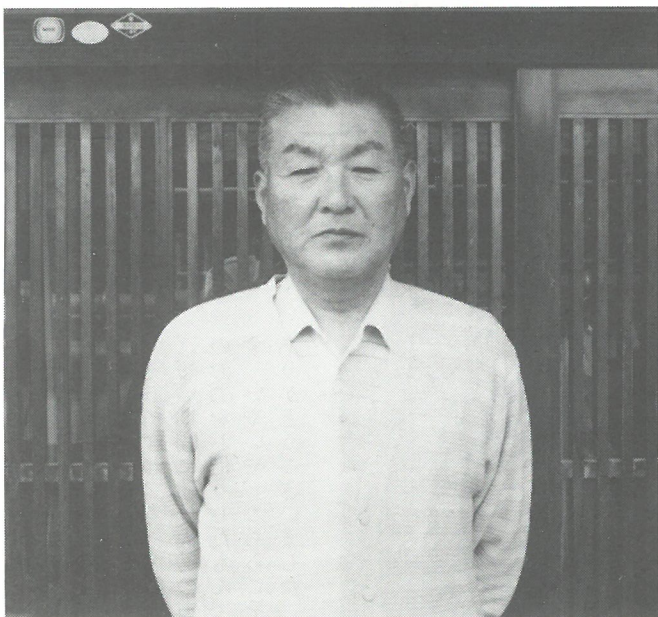
昭和六二年は、NHKドラマ「独眼竜政宗」の放映で、三春町も「愛姫ブーム」にのり全国的に有名になりました。

ところで三春という町は、なんと美しいひびきを持っているのでしょうか。三つの春「梅・桃・桜」の花が一斉に咲きほこり、山の緑と一体になり桃源郷を思わせる平和の里。これが三春の姿ではないでしょうか。

しかし、現実はどうでしょうか。小学校、中学校、高等学校などには美しい桜があります。お城山の桜も老木となり数も少なくなりました。大神宮の桜も姿を消してしまいました。三春駅に通う道路のわきにも、桜並木があったという話も聞きました。これはとても悲しいことです。桜の木は年々老いて枯れつつあるのです。この現実には私たちは早急に対処していか

ければならないと思います。なぜなら、桜の木は一日で太木にならず、花をつけたりはしないのですから……。

で滝桜をバックアップして、美しい三春の桜を全国から訪れる愛好者の方々が満足して帰られるようにみんなで協力しようではありませんか。



温故知新の街に

早川 昭一

福島県には、本場の青い空があるように、我が郷土三春には、「温かいふれあい」があると自負している。「ゆりかごから墓場まで」の通り、三春に産声をあげ今日までこの土地に住んでいるのも、「ふれあい」を大切にする街であるからであらうと実感している今日この頃である。

この「ふれあい」を基として、「拓けゆく、活力ある三春」を考えたときに、三春ダムおよびその周辺の観光開発利用について、町当局ならびに学識経験者な

どにより「工芸村」等を軸とした観光客誘致への計画がなされていることには、全く同感である。そしてその周辺に三春の地名にふさわしい梅、桃、桜の木の植樹の計画。桜は花と滝桜の苗木。梅、桃は花と実を、桃は大久保、白桃に、花も実もある場所に季節にあつた、例えばつつじ等の木で付加価値を高め、工芸村の土産品造りに、九月から十一月にかけて、菊の花や紅葉の眺めとパーベキューや芋煮会の場所に、鱒の養魚等、夢がふくらみます。旧町内の神社、寺院の整備と特色ある花の植樹をして、付加価値を高め、東北の鎌倉、愛姫の里三春として、更にはお城を築城し、二十一世紀へ向けて温故知新の街にしたいですね。



町の成人式に 思う

佐久間 佳子
清水

三春でも簡素化が叫ばれて何年になるだろう。

でも今は、元に戻ってしまっただけは、夏に行なっているようだが、これこそ一月十五日に戻したらどうでしょうか。

一、簡素化といっても、夏のドレスを新調する。着物より安価だが、夏のドレスは成人式以外は着るときがないのではないか。

二、着物は、成人式に着なくても、結局親心で作って着せている親が多いのではないだろうか。私もその一人である。夏の洋服より着用する回数が多いと思う。

三、二重にお金がかかる。四、一月十五日は、以前は、町の中が何となくにぎやかであったような気がする。今の三春は、どうだろうか。

死んだように静かだ。投票で八月に決まったと聞いているが、町が少しでもにぎやかになって、商店街が潤うなら、元に戻しては、どうだろうか。

三春の 街並について

三瓶 一壽
荒町

私はこの町で設計活動をしており、最近よく考えるのですが、「三春らしさって、三春人って、いったい何なのだろうか」と。人々は、この町のことを「東北の鎌倉」とか「東北の小京都(?)」とか形容していますが、でも、よく考えてください。三春は鎌倉でもなければ、京都でも有り得ません。



「三春は三春」なのです。それでは、三春らしさを醸し出すためにはどうすればよいのか。あまり形態的な要素にこだわる必要はないと思います。ただし、これからの町は、機能的に健全でなければなりません。ただ、いくら機能的といっても、昨今では区画整理・と銘打って、ほとんど原形を留めぬほど、地形を削り、なんとも無機質な、幾坪かの方形の土地集合帯に変えてしまっています。近未来「西暦二千年」へ向けてのプレゼントとしては、なんとも「オソマツ」に思えて仕方ありません。現代の科学技術力を考えれば、三春町程度の地形を利用した建造物の築造など十分可能なのです。後はそれを計画利用する人々の胸一つなのですから。

こんなわけで、私はやはり三春の地勢を尊重し、それにあった建物、宅地や街並を創造して行くべきであると考えます。

三春が このような 街になれば

遠藤 由貴恵
永作

私は、もう少し医療面に關心のある町であってほしいと思います。大きな病院も、保健所もあるのに、医療面については少し、関心がなさすぎるように思います。たとえば、夜間に子供が急に発熱する。近くの個人病院では、みても見えない、県立病院には小児科がない。緊急を必要とする場合、郡山の病院へ行くまでに時間がかり過ぎます。そんなとき、近くで診てもらえたら、大変良いことではないでしょうか。



また、町の広報がもう少し早く、民家に届いたらよいと思う。月の初めの行事や、子供の予防接種、健康診断など、わからずに終わってしまうことが時々あります。来月の行事予定が、必ずわかるように、前月の終わりに届いたら大変良いのではないのでしょうか。とにかく、もう少し医療面に關心のある町であってほしいと思います。医療面が良くなれば、人々の動きも変わると思っています。

私は この三春が 好きです

佐藤 大
大町 弘

早いもので、大町のN.T向かいに写真のさんあいとして店を構えて二回目の正月を迎えることができました。三春小、三春中、田村高校と地元の学校を卒業し、八年間東京でのサラリーマン生活から家庭の事情によりUターンして再び三春町民となり、歴史と文化のある町にて商売を始められたことをうれしく思っています。

商売柄、毎日色々な人とお会いでき、数多くの人達とお話できることをよろこびとして働いておりますが、なかなかサラリーマン気分がぬけきれず、悪戦苦闘の毎日です。今考えますと、東京での生活にて、よくどちらのご



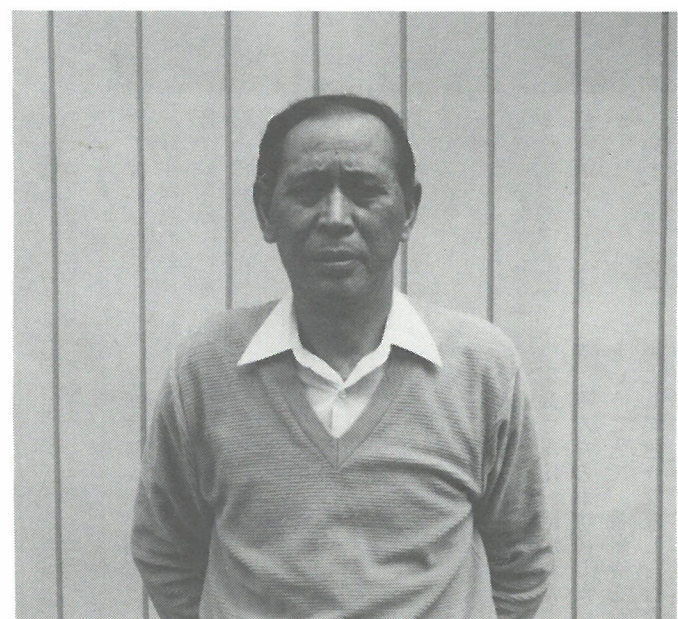
三春が このような 街になれば

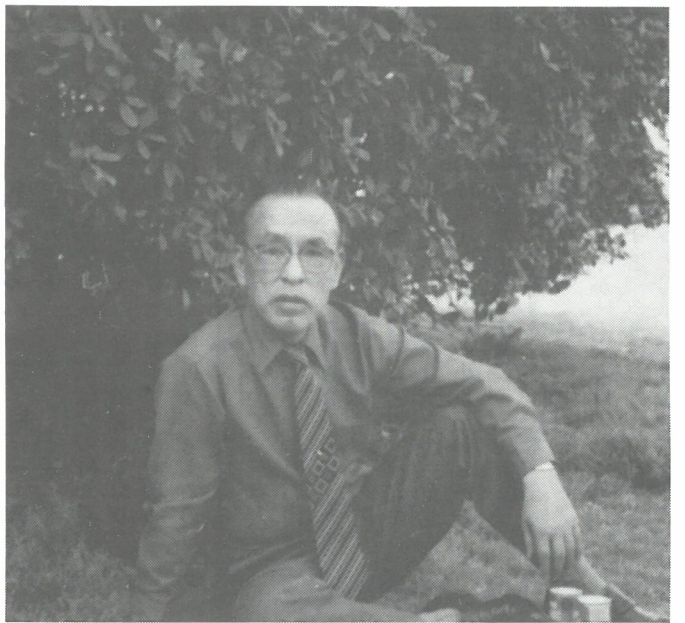
渡辺 功
北向街

私は理由はともかくこの町が好きです。今後ともより三春町を知るために写真を通してこの町の素晴らしさを訴えることができれば幸いです。

出身ですかと聞かれ、「福島県の三春町です」と答えても、他県出身の人にはもちろんのこと福島県出身の人達にも場所が分かってもらえなかったように記憶しております。今でしたら、昨年のNHK大河ドラマ「伊達政宗」の愛姫の出身地ということで少しは知れわたっていることでしょう。

——山と緑と歴史的な神社と寺院の多い伝統的な文化財のある三春町の良い面を存続しつつ——
福島空港建設及び、いわき市と新潟県を結ぶ横断高速道路実現による高速交通時代の恩恵を受ける三春町。今後ますます発展する郡山市と三春町の複線道路早期実現する三春町。
町の中心道路の渋滞を解消するバイパスの建設を促進する三春町。





思い出のある 町とする為に

近内 光一

日向町

三春ダムの早期建設及び、近隣市町村にない雄大な人工湖の実現による観光資源の三春町。

町民年来の願望である町民憩いの中心的な舞鶴城の復元と、花と緑の町民公園の実現する三春町。

目下篤志家の多大なる寄付によって建設工事が進められていて、春は桜と、夏は涼しい緑樹の木陰、秋は境内一帯が紅葉する町民憩いの公園神社の早期実現する三春町。

役場を大駐車場のある場所へ移転建設し、現在の役場跡地を資料館及び広中先生の銅像見学の観光客の大型駐車場を建設し観光客及び中心商店街の買物客用駐車場として利便を供給できる三春のまちづくりをお願いして、私からの提案と致します。

三春に生まれていながら、勤めの関係で三十数年各地を転々とした末に定年を迎え、やっと落ち着いたところへです。

今まで、多くの町を見てきました。三春は歴史の残っているところはそう多くないと思います。

これから三春を活性化ある町にするには、種々あるでしょうが、折角先祖が残してくれたこれらの遺産を捨てておく手はありません。

私が、何十年か振りで見た盆踊り（太鼓のリズムとバチ捌きが素晴らしい）、荒獅子などは、どこに出しても恥ずかしい文化遺産です。

昨年は、愛姫ブームで賑わいましたが、あるとき観光地図を手にした二、三人連れに道を聞かれ、その

山に千年暮らすと龍になるといわれ、龍は古来中国で鱗虫の長として、神聖視される巨大な想像上の動物です。

三春は、古い城下町です。いいながら、その実態を知らないのは私だけではないと思います。どなたかご存じの方は、小冊子にでもまとめて教えていただきたいものです。

折角、愛姫ブームで注目された三春をまた来てみたい町にしたいものです。

鳳、麟、亀とともに、四霊の一つと広辞苑に説明しています。「広雅」という古い辞書には、うろこのあるのを蛟龍（コウリュウ）、翼のあるのを応龍（オウリュウ）、角のあるのを虬龍（キウリュウ）、角のなきを螭龍（チリュウ）と区別し、未だ天に昇らざるを蟠龍（ハンリュウ）という。

龍は雲を呼び雨を起こすと書いてある。龍はどんな声か聞きたいものです。鳴き声はあの日光の鳴龍で知られる、日光輪王寺の薬師堂の天井に、狩野永信、安信の描いた蟠龍があり、その下で手をうつとその反響音がまるで龍の鳴き声のようであること有名である。

昭和三十六年の火災後、堅山南風画伯が、復元龍を描き、新鳴龍となっている。鳴龍の現象は多重反響の（龍）の字を当て、十二支のなかで龍のみが想像上の動物です。

巨大な蛇に似て、うろこに覆われ、四本の足と二本の角をもち雲を呼び雨を降らせるといいう雨水を司る神、「竜神」「竜王」といわれ、ご承知の浦島太郎が助けた亀の背に乗せられ竜宮城の御殿に案内され、乙姫様に歓待を受けたおとぎ話は有名です。

蛇が海に千年、

辰年に あたり 竜の話

三春まちづくり協会 石井 勝男

一九八八年、昭和六三年、今年、十二支の第五の年になります。辰は俗に竜（龍）の字を当て、十二支のなかで龍のみが想像上の動物です。

昭和三十六年の火災後、堅山南風画伯が、復元龍を描き、新鳴龍となっている。鳴龍の現象は多重反響の（龍）の字を当て、十二支のなかで龍のみが想像上の動物です。

東北の鎌倉と言われる我が三春町にも龍の彫刻があります。北町の北野神社の龍虎、新町の田村大元神社の龍門の二匹の龍、中町の愛宕神社の龍。寺院では清水の天沢寺の昇龍、荒町龍徳院の龍、その隣の華正院馬頭観音の柱龍、福聚寺の十一面観音堂、真照寺の古四王堂にもあります。この中でも特に、田村大元神社、北野神社、天沢寺、龍徳院の龍は見事です。三春の鳴龍、八幡町法華寺の天井の二匹の龍も見事です。

明治から大正にかけて、三春町の空高く鳳上げが盛んでした。こ

一種で、平行壁で区切られた空間は固有振動のエネルギーの散逸が少ないため、その周波数の音だけが長く残って特有の残響を生ずるためだそうである。このようなものを残してくれた昔の人の「遊び心」には感心いたします。

付け加えると、徳川家康は乱世をしずめ国を治めた名臣で、薬師如来の生まれ変わりと考えられ、その本地仏を薬師堂に祀ったと言われる日光東照宮には龍の彫刻が非常に多い。彫刻と言えは講談で有名な左甚五郎の龍の彫り物を思い出します。

とを知っている人が少なくなり、淋しい思いがいたします。

鳳には、「絵鳳」、武者絵や波間から昇る太陽を描いたものと、「字鳳」、これは龍に決まっていた。十六画の龍の字を二つ並べ「トウ」と読み、鳳にびったりの飛び龍をあらわしています。

「トウ」の字の上にもう一つの龍、すなわち龍三字を書き、おなじく「トウ」と読むので、これは龍のゆくさまを現す字とされています。四十八画のこの字は、大字典ののっております。また諸橋轍治博士の大漢和辞典には、「トウ」の字を二つ重ねた龍の字四つ、六十四画の字がのっていて、「テツ」と読むのである。「テツ」とは、言葉が多いこと、多言という字だそうです。

私の幼いころ、畳一枚の大きな龍の「字鳳」に藤のつるを加工して「うなり」をとりつけていた。当時の

人々の意気込みがなつかしい。龍のうなる声、ユニークですね。

今年、龍の年。龍の「字鳳」に藤の代わりにはタヤチューブのうなりを付け、温故知新の三春町の空高くあげ、良き年、躍進の年にしたいものである。

三春のダムの工事でもこれから始まりませんが、龍の住み家となります。

あと、十二支一巡りで二十一世紀。西暦二千年の年も龍の年ですね。このことを話すと龍も笑いますか。

一面の左下の写真は、宗久さんが出家なさる時の写真だそうです。

今回の第九号は、もっと早く発行する予定でありましたが、事務局の編集の都合により発行が遅れてしまいました。特集「わたしからの提言」へご執筆頂きました皆様へはご迷惑をおかけいたしました。申し訳ございませんでした。

（伊藤・新野）

コミュニティだより
「三春わが街」第九号
発行 三春まちづくり協会
事務局 三春町商工会内
編集 三春まちづくり協会
会
調査広報特別委員会
事務局 三春町公民館内
TEL (六二) 三八三七

田村大元神社山門の二匹の龍

華正院馬頭観音の柱龍

天沢寺の昇龍

蛇が海に千年、